

ケニア・ムエア地域におけるコメのバリューチェーンの現状と課題 The present situation and problems of rice value chain in Mwea, Kenya

○渡辺守、角田豊、乃田啓吾、伊藤健吾

WATANABE Mamoru*, SUMITA Yutaka**, NODA Keigo***, ITO Kengo***

1. はじめに

近年の農業農村開発分野の主な国際協力のテーマの一つに、フードバリューチェーン(FVC)の構築支援がある。農林水産省は、2014年にグローバルフードバリューチェーン(GFVC)戦略を策定し、その推進体制とするGFVC推進官民連絡協議会を設立した。国際協力機構(JICA)は、食と農の協働プラットフォームを設置し、持続的開発目標(SDGs)の達成に向けて産官学関係者がFVC構築にかかる課題解決のための活動を促進している。

日本のアフリカ支援の柱であるアフリカ開発会議(TICAD)では、ケニア・ナイロビで開催されたTICAD5のナイロビ宣言等において、FVC構築支援が農業分野の重要な活動に位置付けられてきた。

アフリカのコメ消費量は増加しており、ケニアにおいても同様の傾向である。コメを輸入に依存するケニアでは、食糧安全保障上、国内の安定的なコメの供給が急務である。

ここでは、一般財団法人日本水土総合研究所が農林水産省から受託した調査業務の結果を基に、ケニア最大のコメの生産地であるムエア地域におけるコメのバリューチェーンの現状及び課題を概観するとともに、コメのバリューチェーン構築の方向性を提示する。

2. ケニアのコメ生産及びムエア地域の概況

ケニアの2018年のコメの生産量は79千トンであるのに対し、消費量は700千トンと輸入に依存している。一人当たり消費量は13.6kgで、2008年に比して約1.7倍である¹。

ムエア地域は首都ナイロビの北東約100kmに位置し、標高は約1100m、年間降水量は940mm、年間平均気温は22℃である。国内最大であるムエア灌漑地区(農家数約11,700)を有し、当該灌漑地区のコメ生産量は国内の灌漑水田の86%を占める²。これらの背景には、日本をはじめとした同灌漑地区への灌漑開発支援がある。1980年代には日本の無償資金協力、技術協力、さらには世界銀行による支援が行われた。2017年から新たに円借款事業により灌漑開発を促進する(総作付面積7,860ha(計画時)を16,920haに増加)ための施設整備が実施されている³。

3. 調査方法

ムエア地域には、域内最大の生産者組合であるムエアコメ生産者組合(MRGM)及び大規模精米施設を有するムエア精米公社(MRM)がある。2017年6~7月に、それぞれの職員等に聞き取りを行った。

* 国立研究開発法人国際農林水産業研究センター Japan International Research Center for Agricultural Sciences (前一般財団法人日本水土総合研究所 The Japanese Institute of Irrigation and Drainage)

** 株式会社竹中土木 Takenaka Civil Engineering and Construction Company

*** 岐阜大学応用生物科学部 Faculty of Applied Biological Sciences, Gifu University

キーワード: 産業経済計画、農村振興、フードバリューチェーン

¹ USDA: PS&D Online (2020)

² Josephat G. Muhunyu: Is Doubling Rice Production in Kenya by 2018 Achievable? (2012)

³ JICA: Website news release (2010)

4. 調査結果

域内のコメの流れは表 1 のとおり 4 つに大別できる。

表 1 ムエア地域のコメの流れ

Table1 Flow of main distribution of rice in Mwea

	区分	生産者から販売までのコメの流れ	精米施設 (台数と処理能力)	粳米取扱量 のシェア
1	MRGMによる集荷	MRGMが組合員宅（集荷場）まで集荷に行き、MRGMの大規模の倉庫に運搬。MRGMの乾燥場と乾燥機で乾燥し倉庫に貯蔵。MRGMの精米施設で精米し、直売店で販売、または小売店等に販売する。	2台 (3トン/時間、2トン/時間 各1台)	30%
2	MRMへの運搬	農家がMRMに持ち込み、MRMの乾燥場で乾燥し、MRMの大規模倉庫に貯蔵。MRMの精米施設で精米し、小売店等に販売する。	2台 (2.5トン/時間 2台)	15%
3	民間精米所への運搬	農家が民間精米所に持ち込み、民間精米所により乾燥。乾燥後、精米され、店頭で販売、または小売店等に販売する。	ごく一部を除き小規模	55%
4	仲買人による集荷	仲買人が農家に集荷に行き、民間精米所に運搬する。		

MRGM の実質的に活動している組合員数は 3000 程度で、組合員にコメ（粳米）の運搬、種子・肥料等の提供を行っている。自前の倉庫、乾燥場、精米施設、直販所を有し、乾燥は天日干して貯蔵後、精米前に乾燥機で乾燥させ水分量を調整している。

MRM は農家から持ち込まれた粳米を取り扱っている。1999 年まではムエア地域の 100%の粳米量を扱っていたが、現在は 15%程度に減少している。

民間精米所は 100 箇所以上あるが、処理能力が 1.5 トン/時間を超える精米施設を有する精米所は 6 箇所に過ぎない。民間精米所の多くは幹線道路に沿って立ち並んでおり、乾燥場を有していないことから、道端に敷物を敷いて天日干ししている。人や車両の往来が激しいため、歩行者や車両に踏まれ土埃やゴミが混入しやすい状況にある。また、コメの水分量は 12～14%程度まで乾燥させる必要があるが、天日干しなのでそれは一様ではない。民間精米所は増加傾向にあり、現状の乾燥方法によるコメの品質への影響が懸念される。また、使用されている精米機が古いことも、精米の質の低下につながっている。

農家は貯蔵施設を有しておらず、集落の道路事情は悪い。輸送手段も持たない農家は、自力で精米所にアクセスすることが難しい。そのような農家には収穫直後に仲買人が訪れ、粳米を集荷し民間精米所に運搬している。

5. 課題と今後の方向性

今後、作付面積が拡大し粳米の取扱量が増加する見通しであるので、民間精米所の増加傾向は継続することが予想される。コメの品質と安定した供給を確保するためには、乾燥場及びアクセス道路の整備が必要である。集落単位の貯蔵施設の整備も有効であろう。

これらの方策は一部に過ぎない。FVC は生産者から消費者まで多くのステークホルダーが介在し、インフラの整備には行政機関等も関与する。それぞれの立場で経済的な観点から現状のバリューチェーンを分析し検討することで、より総合的で実践的なバリューチェーンの構築の提示が可能となると考える。